

石川県安全運転研修所 中期経営目標

(実施期間 平成27年度～平成29年度)

平成27年3月 策定

1 施設の設置目的

安全で快適なくるま社会を実現するため、自動車の運転に関する高度な技術及び交通安全意識の講習を行い、新しいくるま社会に対応する良きドライバーの育成を図ることを目的としています。

2 施設の果たすべき役割

石川県安全運転研修所は、運転免許取得後に再教育の機会に恵まれていない多くの運転者に交通安全教育の機会を与え、施設の効果的活用による安全運転のための知識・技術向上と交通安全意識の高揚を図ることにより、悲惨な交通事故を抑止することを役割としています。

3 事業内容

高度な技術、知識を得る体験型・実践型の交通安全教育を行うため、次の3コースの研修などを実施しています。

(1) リフレッシュコース

既に運転免許を取得している者への再教育で、指導員による運転技能及び知識等の指導助言により、その資質の向上を図ることを目的とした研修を実施しています。

(2) チャレンジコース

既に運転免許を取得している者が上位免許を取得するため、又は新たに運転免許を取得するため、指導員によるマンツーマンの研修を実施しています。

(3) 貸しコース

既に運転免許を取得している者が、自己の車両により自分で練習を行うためのコースを貸し出しています。

4 現状と課題

(1) 管理運営体制について

- ・ 石川県安全運転研修所では、施設を効率的・効果的に管理するため、指定管理者制度を平成18年度から導入しています。
- ・ 施設の運営、使用料の徴収及び利用促進、施設、設備及び備品の維持管理及び小規模な修繕などの業務は指定管理者が行っており、当中期経営目標の実施期間である平成27年度～から平成29年度までは、「一般財団法人 石川県交通安全協会」

を指定管理者として指定しています。

- ・ 県では、利用状況や利用者からのご意見、小規模な修繕の実施状況などの管理状況について、指定管理者より定期的に報告を受け運営指導を行うなど、適正な管理・運営に努めています。
- ・ 県では、指定管理者と協議して老朽化した施設の修繕などを実施しており、引き続き今後も取り組む必要があります。

(2) 施設の利用促進及びサービス（満足度）向上について

- ・ 施設の有用性（多様な交通環境に適応できる運転者育成を目的とした県の施設であり、交通事故抑止に役立つこと）及び利便性（より多くの県民がいつでも利用できるよう利用料金は安価であり、利用時間は利用者に合わせて設定できること）の周知に努め、その効率的・効果的な手段として、パンフレット・チラシ等の頒布、ホームページによる広報を実施しており、今後もより一層の充実に取り組んでいく必要があります。
- ・ 原則、県内に居住する自動車等の運転者（免許を取得しようとする者も含む。）を対象に、多様な交通環境に適応できる運転技術と運転マナーの向上を図っていくため、高度な運転技能知識と円満な社会常識を備えた研修指導員を育成し、県内で多発する交通事故形態に対応する実践・体験型の研修内容を今後より一層充実させる必要があります。
- ・ 多くの県民に気軽に利用していただけるよう、指導員（職員）一同「常に県民全体の安全のために」を念頭に置き、利用者すべてに奉仕の精神（親切丁寧をモットー）で安全運転の知識・技能・意識の向上のための研修に当たっていく必要があります。

(3) 施設運営の効率化について

- ・ 県と指定管理者間で連絡体制を確立し、常に情報を共有するなど、非常時にも即時対応できるよう連携を図り、迅速かつ効率的な施設運営を行っています
- ・ 今後とも、指定管理者の創意工夫に基づいた管理運営により、質の高いサービスを研修所利用者に提供するとともに、管理経費の削減に努める必要があります。

5 中期経営目標

(1) 中期経営目標 (指定管理者が実現すべき目標)

- ① 利用者数を3年間で3%増加させます。
- ② 利用者アンケートによる満足度は、引き続き95%以上を維持します。

(2) 測定指標と目標値

測定指標		H25実績値	目標値(H29)
① 利用者数		5,433人	5,595人
② 利用者アンケート における満足度	利用者サービス	98.5%	95%以上
	施設の維持・管理	99.2%	95%以上

6 指定管理者が設定した目標達成に向けた具体的な取組内容

(1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上に向けた取り組み

① 施設利用促進に向けた取り組み

○ 施設の利用促進

- ・ 実践・体験型の研修について、県内で多発する交通事故形態に対応させるなど、内容の充実に努めます。
- ・ 利用者のキャンセル防止のため、予約の再確認を徹底します。

○ 研修所の存在と研修内容の広報(情報提供、PR等)

- ・ 報道機関を活用し広報の充実を図ります(ラジオでの定期広報、テレビ・新聞社への積極的な情報提供による報道広報)。
- ・ ホームページに免許取得の挑戦や事故防止に役立つコース別研修内容をPRします。
- ・ 年間を通じ、交通安全キャンペーンや交通安全県民大会等行事の開催時に「研修所利用案内」チラシを配布します。
- ・ 交通安全協会の機関誌「こうつういしかわ」及び会員に発行している「安全運転便利帳」(発行部数10万冊)に研修所の利用案内を掲載します。

○ 関係機関・企業と連携した促進活動

- ・ 県の関係機関・企業の連携と協力を得て、県内の運送業社などの企業に新入社員研修等での利用を働きかけます。

② サービス(満足度)向上に向けた取り組み

- ・ 利用者全員に対する無記名式アンケートの実施、待合室に全利用者を対象とした意見箱の設置により、利用者の声・ニーズを踏まえたサービス改善と指導員

の親切丁寧な対応の指導教養に活用します。

- ・ 「女性指導員がいると女性がより利用しやすくなる」との県民の意見があるため、引き続き女性指導員を雇用し、研修指導に当たらせていきます。
- ・ リフレッシュ研修者に実施している「安全運転診断シート」に基づき、個人個人に応じたきめ細やかなアドバイスや指導を行います。

(2) 施設運営の効率化に向けた取り組み

- ・ 光熱水費（建物の照明・クーラー、コースの照明、スキッドの水）削減のため、指導員に無駄を廃する節約意識を呼びかけ、年間の節約効果を数字で示し、削減を図ります。
- ・ 「施設・資機材をこまめに点検することで軽微な段階での補修を行い、大事に至る補修出費を防止する。」観念を職員に浸透させ実践します。
- ・ チャレンジコース利用者などのキャンセル防止が研修所の稼働率向上につながることから予約時にその点に配慮した受付を実施します。
- ・ コースの除草、一部剥離した白線のペイント補修については、指導員が補修を行い、経費の削減を図ります。

参考資料（施設の利用状況など）

（１）利用指標（利用者数（人））

項目	H 2 3	H 2 4	H 2 5
リフレッシュコース	1, 9 2 1	1, 8 4 4	1, 8 3 9
チャレンジコース	2, 5 4 5	3, 0 5 7	2, 8 3 7
貸しコース	1 7 7	1 2 1	2 8 7
原付講習	5 9 4	5 3 5	4 7 0
計	5, 2 3 7	5, 5 5 7	5, 4 3 3

（２）利用時間数（時間）

項目	H 2 3	H 2 4	H 2 5
リフレッシュコース	2, 0 2 0	1, 9 2 7	1, 9 3 2
チャレンジコース	3, 7 5 8	4, 3 2 6	3, 9 9 7
貸しコース	1 8 9	1 4 5	4 1 3
原付講習	5 9 4	5 3 5	4 7 0
計	6, 5 6 1	6, 9 3 3	6, 8 1 2

（３）使用料の収入実績（円）

項目	H 2 3	H 2 4	H 2 5
リフレッシュコース	4, 965, 000	4, 724, 200	4, 756, 600
チャレンジコース	13, 147, 700	15, 213, 600	14, 078, 500
貸しコース	251, 400	200, 500	648, 800
原付講習	950, 400	856, 000	752, 000
計	19, 314, 500	20, 994, 300	20, 235, 900